

生き抜く力を、子ども・若者へ

NPO カタリバ

Chance for Children

Florence
認定NPO法人フローレンス

TOYBOX
Nonprofit Organization

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

ハタチ基金事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3

高円寺コモンズ203 NPOカタリバ内

TEL: 03-5327-5667 (平日10:00~19:00)

<http://www.hatachikikin.com/>



東日本大震災発生時に
0歳だった赤ちゃんが、
無事にハタチを迎えるその日まで。

被災孤児、及び被災した子どもの心のケアに合わせ、
学び・自立の機会を継続的に提供する期限付きの基金です。



ハタチ基金 2012年度活動報告書

Report 2012

苦しく辛い経験をした子どもは、 誰よりもつよくやさしくなれる。 被災した子どもたちの成長は、 この国の新たな希望です。

家族を失う。友達を失う。

こんなにも大きな試練を一人で
乗り越えていくことは、とても大変です。

しかし、長期にわたり
「君はひとりじゃない」と励まし、

子どもたちにやさしさを

届け続ける存在がいたら。

きっと試練を乗り越えるための原動力の
一つになれるのではないのでしょうか。

そしてきっと。

乗り越えた試練の分だけ

強さと優しさをもった大人となり、

社会の中で起こる次なる試練の解決にも

取り組める人となれるはずです。

そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

もくじ Contents

- 1 概要／もくじ
- 2 ハタチ基金とは
- 3 震災から2年 代表のおもい
- 4 子どもたちの声
- 5 活動報告
- 14 団体紹介
- 15 個人からのご支援
- 17 企業・団体からのご支援
- 20 支援の方法
- 21 ご寄付の使途
- 22 会計報告

ハタチ基金は、被災した子どもの心のケアに合わせ、 学び・自立の機会を継続的に提供する基金です。

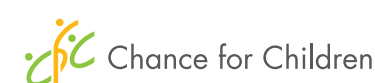
被災した子どもたちが震災の苦難を乗り越え、社会を支える自立した20歳へと成長するように、
東日本大震災発生時に0歳だった赤ちゃんが無事にハタチを迎えるその日まで…

子どもたちを継続的にサポートしていきます。

ハタチ基金をきっかけに、震災を他人ごとにしないうで、自分ができることを考え、
行動される方が増えることを目指して。



【ふくしまインドアパーク】
認定特定非営利活動法人
フローレンス



【学校外教育バウチャー提供事業】
一般社団法人
チャンス・フォー・チルドレン

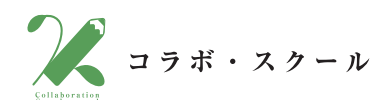


【未来創造事業】
認定特定非営利活動法人
NPOカタリバ



みなみそうまーニングセンター
ふみだす未来の教室

【みなみそうまーニングセンター】
特定非営利活動法人
トイボックス



【コラボ・スクール】
認定特定非営利活動法人
NPOカタリバ

【ハタチ基金口座設置団体】



公益財団法人日本財団

※2012年度は、5つの支援事業の子どもたちのために大切に使用させて頂きました。

震災から2年 代表のおもい



認定特定非営利活動法人NPOカタリバ
代表理事 今村久美



一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン
スーパーバイザー 能島裕介



認定特定非営利活動法人フローレンス
代表理事 駒崎弘樹



特定非営利活動法人トイボックス
代表理事 白井智子



公益財団法人 日本財団
会長 笹川陽平

被災した子どもたちの意欲と笑顔を支えることは、
未来の日本の社会をつくることです。

震災3年目、私の住む大槌町をはじめとした全壊地区の風景は、被災地から工事現場に変わりました。大規模な公共事業には、疑問が残るものもあります。不透明な未来だから、今何より優先してみんなで取り組みたいこと、それは子どもたちの成長環境を守ることです。皆様に支えられながら成長する生徒たちの様子を見てみると、東北のみならず、日本の未来をここから変えられる希望だと改めて確信する日々です。

復興を支える人を育てることが、何よりも大切です。

子どもを支えることは地域の未来をつくることです。街の復旧のように目に見えるものではないけれど、街の復興を支える人を育てることは、何よりも大切です。19年前、私たちの活動は阪神・淡路大震災を契機に始まりました。あの震災の年に生まれた子どもたちはこの春、高校を卒業しました。おそらく、彼らがこれから神戸の街を支えていく。そんな明るい未来をいまの東北にも感じています。

皆さんの支援は、東北で困っている子どもたちを助けるのみならず、
今後の日本が向き合う問題への答えを得られることに
繋がるかもしれません。

この2年間の被災地支援の成果、プロセスは、我々自身が人間の持つ可能性に気づかされる日々だったと思います。子どもたちは大きくなり、やがて大人になります。彼らに立ちはだかる壁は、少子高齢化に直撃された地方という現実です。大きな難題ですが、ここで解が得られれば、それは日本全体を救うことにもなるでしょう。ぜひ、今後も皆さんの継続的な支援を、心からお願いしたいと思います。力強く立ち上がる東北と、そして日本のために。

子どもたちが安心安全に成長できる場所と機会を提供し続けて行けるように。もっと力強く、安定して子どもたちを支えられるように。

皆様の厚いご支援のお陰で、みなみそうまーニングセンターも開設から一年、子どもたちが安心して自分自身で居られる場所を得ることが、こんなにも大きな成長をもたらすのかと、感動と感謝でいっぱいです。一方で、震災直後にはまだみられなかった子ども達の発達の課題や、社会的な課題が重くのしかかっていることもまた、事実です。引き続き温かいご支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。

多くの企業様や個人寄付者様からの浄財とご声援をもちまして、
ハタチ基金は2年間を全うすることができました。

お陰様でそれぞれの事業は、各地で継続的かつモデル的な取り組みとして受け入れられ、子どもたちを見守る輪の広がりにつながっております。3年目を迎える被災地では、今も不自由な環境に身を置き、それでも地域の復興を支えようと耐え、奮闘している方々がいます。そしてそんな大人や若者に触れ、希望をもって生きようとする子どもたち、彼らこそ復興のその先にある希望です。継続的な支援のため、今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

未来の復興の担い手へ 子どもたちの声

◎「夢の実現に向けて一歩ずつ」高校1年生(宮城県石巻市)のスピーチ



私は二年前の東日本大震災の津波で家を流されてしまいました。今までの生活とは一変、もちろん自分の部屋もなくあまり自由のない暮らしを二年間し、その間何度となく震災を恨みまた悔しくも感じてきました。そして約一か月前やっと新居も見つかり少しずつではありますが以前のよう生活ができるようになりました。私の夢は商品のデザインや企画、それに伴う設計を行うことです。特にアイデア商品の企画を行う仕事に従事することが夢で、高齢者や身体障害者の方の自立支援につながるような物を作りそれを使って自分で何かが出来た時の喜びや達成感を自らの目や手で味わってもらいたいのです。震災当時、特に

2013年3月、一般社団法人チャンス・フォー・チルドレンは、仙台市内にて塾や習い事など、学校外教育に使用できるCFCバウチャー贈呈式を開催しました。贈呈式では、バウチャーを利用する子どもの中から代表して自身の震災体験や、将来の夢などをスピーチしました。

高齢者の方や障害を持った多くの方々はとても辛くうしろめたい日々を送っていたのではないかと。そして今もお、多くの方々が前向きな気持ちになれないままではいるのではないかと感じています。そんな時にでも、ほんの一瞬でも気が紛れ楽しさを感じながら手先や思考力を使うような何かを作りたいと考えています。その為の自分自身への今後の課題はその何かを見つけることです。それを見つけるために、私は様々な体験や経験を積まなければなりません。今以上に感性を磨き色々なものを見て、触れて感じて時代の流れに沿った新しい文化を学んでいきたいと思っています。

◎「十年後の自分へ」中学3年生(岩手県大槌町)の手紙



今、この手紙を読んでいる君は何をしていますか。どこにいますか。誰といますか。十年後だから、私はもう25～26歳になっているでしょう。でも15歳の今の私には、将来(今日読んでもこの時)のあなたが何をしているのかもどこにいても誰といるのかも、全然まったく少しも予想がつかません。なぜなら、私は中学生生活最後のこの「やくそく旅行」で、自分には、とてつもなく大きな無限の可能性が広がっているということを学んだからです。今日の午後行うプレゼンのために、とても辛く大変なことが多い旅行でしたが、とても良いプレゼンができそうです。どんなプレゼンをしたか覚えていますか?一昨日に聞いたヤマト運輸の松本さんから聞いた“まごころ宅急便”から、注目される世代(ターゲットだけに注目するのではなく、新たな視点から、陰の部分にいるような人たちに光や希望を与えること、そして昨日の「BIG ISSUE ビッグイシュー」というホームレスの方々を支援する方々やホームレスの方々を見て感じた「立ち上がらない人」と「立ち上がる人」と「立ち上がることを支援する人」の立場があること。これらのヒントを参考に、“今、復興について、私たちができること”は大槌のためにはたらく大人達に「ありがとう」と「頑張れ」を言うことだと確信しています。何が正解で何が間違いなのか、15歳の今の私にはわからないけれど、

2013年3月、認定特定非営利活動法人NPOカタリバの未来創造事業の1つとして、中3生32名が卒業後に上京、4泊5日の合宿研修「やくそく旅行」を行いました。発表会では、「震災復興のために、いま私たちができること」のテーマのもと、それぞれの決意を約束しました。

ど、でも、今はこれでいいかなと思ったりもしています。なぜなら、たくさんの意見があるからこそその世の中だからです。この3～4日間でとてもたくさんのことを学びましたが、どの方も自分なりの独自の考えがあって、信念がある、そんな人達ばかりでした。だから、25～26歳の君にも、何でもいから何か1つだけ、信念(できれば例がないような大きなことで、誰も考えつかないような、私にしかできないこと)を持って、その達成に向かって歩いてほしいと望んでいます。考え方とか夢とか、全然変わっているかもしれないし、過去の自分にあれやこれやと言われるのは嫌かもしれないけど、今、3月20日、この時の私は、ぜひ将来の自分が誰かのために役に立つことをしていることを願います。そして何よりも自分がやっていてやりがいを感じること、楽しいと思えること、その職業を自信を持っていること、そんなことが達成できていたら、喜びます!笑でも、自分ならできると思います。だから、諦めるな!立ち向かって、くじけてもくじけても何回も立ち上がって頑張って前を向いて!君の向かう先にはきっと明るい未来が待っています。そして何より、その未来を作るのは自分です。それがこの約束旅行を通して学んだ一番のことです。こんな考えを持っていた自分のこと、どうか忘れないでください。



0歳～

放射能によって外遊びができない 福島の子どもたちのための屋内公園

ふくしまインドアパーク（認定特定非営利活動法人フローレンス）

放射能の問題が長期化するに伴い、
未就学児をお持ちの親御さんは、
「どこの公園が除染済みか分からない」
「除染済みの公園でも放射線量が元に戻っ
ているのではないだろうか」と、
外遊びに対する不安を感じています。
運動能力を補ったり、
ストレスを軽減するためにも、
福島にはまだまだ「安心」して遊べる屋内
公園が必要です。

福島の子どもたちに思いっきり遊べる 場所をプレゼントしたい

その想いでスタートしたふくしまインドアパークは、2011年
12月に郡山園、2012年8月に南相馬園がオープンしました。
それぞれの園の特長を活かしながら、施設スタッフが一緒に
遊び、楽しむ、コミュニティ創出型の公園を運営しています。



遊び場からコミュニティ創出の場へ

地元郡山の英語教室や体操教室の先生、おもちゃの病院の
ボランティアの方、おもちゃ屋さんや本屋さんが、ふくしまイ
ンドアパークでイベントを開催して下さるようになりました。
そうしたイベントが人と人とのつながりを広げるきっかけにな
り、コミュニティ創出につながっています。



憧れのバレリーナと過ごす夢の機会に 子ども達は大興奮でした

英国のアーティストの皆様からハタチ基金へご寄付いただい
たご縁で、英国のバレエ団に所属されたご経験のあるバレ
リーナの吉田都さんがトークショーを開催して下さいました。
地元のバレエ教室の子どもがたくさん集まった、熱気あふれる
中で踊り方のアドバイスや、夢の実現のためにどんなことをす
ればよいのかなど、たくさんのお話をして下さいました。



Result【成果】

◎郡山園

「1年間で福島の子ども達を1万人笑顔にする!!」を
目標に活動してきました。1年間で約13,000人のお
子さんが来場しました。

◎南相馬園

オープンから7ヶ月半で約2,000人のお子さんが
来場しました。また、地域の有識者を参加者とする
委員会を2ヶ月に1回のペースで開催し、地域の要
望を運営に活かしています。

Vision【今後のビジョン】

住民とのコラボレーションの場へ

運営2年目となり、パークの特長が明確になってき
ました。それは、施設スタッフが子どもと積極的に
遊んだり、親御さんとお話したり、一緒にイベント
で楽しんだり、様々なはたらきかけをするところ
です。いいところを伸ばしながら、コミュニティ創
出の場や、住民とのコラボレーションの場へと進
化させることが今後の目標です。

南相馬園から車で20分程いくと、小高区や浪江町といった津
波被害があった地域に着きます。震災から手付かずの地域、
これから復興に向かって進んでいく地域と状況は様々です。
子ども達と汗だくになって遊んでいると、ここが被災地である
ことを忘れます。なんでも遊びにしてしまう子どもたちは、楽
しみを見つける天才です。福島の未来をつくっていく子どもた
ちと一緒に楽しく遊びながら、地域に寄り添った運営を続け
ていきたいです。（南相馬園施設スタッフ）



Message



ストレスを抱える子どもたちの心のケアを

みなみそうまラーニングセンター(特定非営利活動法人トイボックス)

震災から2年が経っても、未だ状況が変わらない南相馬市。教育現場でも人員不足により、発達障がいを持つ子ども達は適切な支援を受けられる状況とは言いがたいのが現状です。

そんな中、ラーニングセンターは行き場をなくし途方に暮れていた子ども達が、安心安全に過ごすことのできる場として活用していただいております。「唯一安心できる場所。なくさないで欲しい」「ずっと通いたい」という子ども達・保護者の切なる思いがあります。

みなみそうまラーニングセンターは、子どもたちが「生活していくために必要なことを学ぶ場所」です

具体的には…

- 学習する習慣を身につける
- 苦手なこともチャレンジしてできるようになる
- 生きていくための力をつける

を目標に、学習支援・心理ケア・小集団での社会スキルトレーニングを行ってきました。また、保護者や子どもたちに関わる方々の相談・訪問なども実施しています。



子ども達の声に応えてお泊り会を実施(2012年3月)

子ども達の「みんなでのお泊り会がしたい」との声に応えて、お泊り会を実施しました。待ちに待ったお泊り会、夕食は焼肉で子ども達はさらに大喜び。食後は花火に卓球大会。卓球大会は熱戦が繰り広げられました。集団でのルールをしっかりと守って楽しく過ごすという経験をまた一つ身につけた子どもたち。「またやりたい!」と大きな思い出になった一日でした。次は 南相馬では今体験させることが難しい土いじりができる場所への遠出を計画中です。



ラーニングセンター1周年記念(2012年4月3日)

ラーニングセンターオープンより一周年を迎えるにあたり、お祝い会を開催しました。開設当初から温かいご支援を頂いておりますポケモンウィズニュー様より沢山のグッズを頂き、記念に抽選会を行いました。子ども達は「何があたるんだろう?」とウキウキワクワク。プレゼントを受け取ると、みんなで見せ合い、喜びを分かち合っていました。



Result【成果】

24年度も引き続き、児童クラブ(学童保育)訪問、指導員研修等を行い、地域の子どものケア等を実施。また、学校からの要請を受け学校への訪問・コンサルテーションも実施しました。ラーニングセンターでは、週4回、一日平均10人から20人の子ども達を通い、学習や社会的スキルを学ぶことで、苦手なことにもチャレンジする力がつき、また、友達同士の関わりもスムーズになってきました。

●平成24年度実績

児童クラブの巡回支援 述べ人数…1341人/児童クラブ指導員全体研修…4回実施/センター利用延べ人数…1613人

Vision【今後のビジョン】

現在は人員の関係で小学生が主な対象となっておりますが保護者会等で「中学生になっても通わせてほしい」、また南相馬市も広範囲にわたるので「市内にこのような場所をもう一つ作ってほしい」など多くの要望を頂いています。

皆様のニーズにお応えできるよう、精一杯尽力し、通所している、また通所を希望している子ども達のためより良い環境づくりを続けていきたいと思っています。

Message

「息子は今まで自分の思いや考えを言葉にして伝えることが苦手でしたが、ラーニングセンターに通うようになって『何とか話そう』という姿が出てきたように思います。まだまだ言葉は足りないのですが、気持ちが伝わってくるようになりました。」(小5/男子保護者)

「わからないことが積み重なってしまって娘も私も困り果てていましたが生活習慣が身について、学習にも取り組むようになってきました。」(小6/女子保護者)





photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、 教育の機会を

学校外教育バウチャー提供事業(一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン)

震災による経済被害によって、多くの子どもたちが塾や習い事、体験活動等の学校外教育の機会を失いました。2011年度に引き続き、今回も1200名(定員の12倍以上)の応募があったことから、震災から2年以上が経過した今もなお被災家庭では厳しい経済状況が続いていることがわかります。応募者の半数以上が、住家全壊や原発被害で避難を余儀なくされた子どもたちです。「多額のローンが残り、教育費を捻出できない」「進学をあきらめた」といった声があがっています。

CFCでは、学びの機会を失った子どもたちに、“学校外教育バウチャー(クーポン券)”を提供しています

バウチャーは、①塾や家庭教師などの教科学習、②キャンプやハイキングなどの体験活動、③サッカー、野球、水泳などのスポーツ活動、④ピアノ、絵画などの文化活動、⑤英会話、習字などの習い事で利用できます。子どもたちは、バウチャーを利用して、一人ひとりの特徴やニーズに合った学びの機会を得ることができます。



photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

学校外教育バウチャーの提供を通じて 子どもたちの学びを支える

今年度は176名の子どもたちが、バウチャーを利用してそれぞれの夢や目標に向かって活動しました。バウチャーの利用先は学習塾、ピアノ教室、スイミングスクール等、様々です。現金給付と違い、バウチャーを支給することで、用途を教育サービスに限定できるため、確実に子どもたちに教育の機会を届けることができます。



photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

大学生ボランティアが子どもたちを見守る

大学生ボランティアが子どもたちと月1回の電話や面談を通して、進路や学習、バウチャーの利用方法等に関する相談にのりました。1年以上面談を継続することで、子どもたちと大学生は少しずつ信頼関係を深めていきました。子どもからは「本当のお兄さん・お姉さんのような存在」「毎月の電話を楽しみにしている」等といった声もあがっています。



photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

Result【成果】

●中学3年生の100.0%が高校に進学 (41名/41名)

※高校進学率全国平均: 98.3% (出典)文部科学省「平成24年度学校基本調査」

●高校3年生の84.3%が大学等に進学 (27名/32名)

※大学・短大進学率(現役)全国平均: 53.6% (出典)文部科学省「平成24年度学校基本調査」

●中学3年生・高校3年生の91.7%が希望する進路に進学 (67名/73名)

Vision【今後のビジョン】

皆様のご協力のおかげで、176名の被災した子どもたちを支援することができました。一方で、事務局には多くの被災家庭から悲痛な声が届いており、まだ支援は十分ではありません。私たちが今後取り組むべきことは極めて明快です。「彼らが大人になるまで、支援を継続すること」「一人でも多くの子どもに教育機会を届けること」これらを通して、復興を支える「人」を育てていきたいと思えます。

昨年の高校受験のときは、親孝行のためにも高校に進学したいと思っていましたが、学校でも勉強についていけなくなり、まわりの友達も塾に通い始め、焦りました。けれども塾に通うにはお金がかかると聞き、親孝行以前に迷惑をかけてしまうのではないかと悩みました。そんなときにバウチャーを利用して塾に行けることになり、少しずつ成績もあがってきました。無事に志望校に合格できたときは嬉しかったです。



photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

Message



勉強する場を奪われた子どもたちに、学べる場を

コラボ・スクール(認定特定非営利活動法人NPOカタリバ)

東日本大震災による津波は、
子どもたちの学習環境に大きな爪あとを残しました。
コラボ・スクールのある宮城県女川(おながわ)町と岩手県大槌(おおつち)町は、
住居倒壊率が82.6%、64.6%と高く、
震災から2年が経った今でも、
狭い仮設住宅の隅、
1mの隙間で机に向かう生徒、
家族が見ているテレビの音で勉強に集中できない生徒が残されています。

コラボ・スクールは、被災地の子どもたちのための放課後の学校です

2011年7月、避難所として使われていた小学校を借り、宮城県に「女川向学館」を、同年12月、公民館やお寺などを借り、岩手県に「大槌臨学舎」を設立しました。2012年度は約400人の小中高生へ、学習指導と心のケアを行いました。数学・英語など基礎学力の学習、英会話や読解力・科学実験など発展的な学習の他、東北復興を担う人材の育成、そして未来のイノベーター輩出を目指しています。



宿題をする場所がなく仮設住宅の前で勉強する児童(2011年6月)

地域全体で、子どもたちを支える

コラボ・スクールが大切にしたのは、さまざまな立場の方とのコラボレーションです。町役場や教育委員会、小中学校などとも協働し、地元の方々も雇用しています。保護者も、受験生の食事作りやお守り製作などで学校運営に参加。ボランティアや、遠くから見守る寄付者の皆様も合わせて、それぞれが組織や役割を超えて、協力しながら子どもたちを支えています。



お守りを製作してくださった保護者の方々

卒業しても子どもたちの「居場所」へ

3月16日、中3生を対象にした向学館の卒業式こと「最後の授業」が行われました。卒業証書の授与から、校長今村からの贈る言葉。そして、これまでの自分を振り返り、未来に向けての約束をカードに記入しました。コラボ・スクールでは、高校生も自習室やプロジェクト学習などを通し、気軽に帰ってこられる居場所となることを目指しています。



女川向学館「最後の授業」

Result【成果】

2012年度、コラボ・スクールは約400人の子どもたちをサポートしました。保護者へのアンケートでは、約80%が「子どもが勉強に対して前向きになった」と回答。中3生124名のうち、95%を超える生徒が、第一志望校へ合格するなど、学力向上にも貢献しました。また、約90%が「子どもたちにとって重要な居場所となっている」と回答するなど、子どもたちがさまざまな人と出会い、前向きに未来へと歩んでいく居場所の役割を果たしました。

Vision【今後のビジョン】

女川向学館では4月上旬、大槌臨学舎では5月上旬から2013年度がスタート。大槌臨学舎では、13年度も高校の部に、卒業生50人が登録するなど、中学からの継続したサポートを続けています。また、保護者の方々からの「より主体的にコラボ・スクールに関わっていくべき」という声から、奨学金制度を設けながら、一部授業料を有料化。寄付・行政・受益者負担をバランスさせた運営を目指しています。

僕たちを支援し支えてくれたたくさんの皆様本当にありがとうございました。僕は、この臨学舎で学んだことは、将来の大きな財産になったと思っています。先生方からは、たくさんのことを学びました。自分の経験やちょっとしたおもしろい話など。僕のあこがれる人達です。僕の将来の夢は、教師です。この夢を持たせてくれたのも臨学舎のおかげです。自分の夢へ、一步一步近づいていきたいです。本当にありがとうございました。(大槌臨学舎/佐々木 紘也)



Message

団体紹介

生き抜く力を、子ども・若者へ

NPOカタリバ 【認定特定非営利活動法人NPOカタリバ】

NPOカタリバが取り組む社会課題は、未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうことです。すべての子ども・若者が、自ら思い描いた未来を切り開いていけるために、私たちが育てるのは「生き抜く力」です。首都圏をはじめ全国では、高校生の心に、“火を灯す”「カタリ場」を、東北では、子どもたちのための放課後学校「コラボ・スクール」を展開しています。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ 203 【お問い合わせ】TEL 03-5327-5667 <http://www.katariba.or.jp/>



Chance for Children 【一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン】

Chance for Childrenは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきた特定非営利活動法人ブレーンヒューマンティリーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分に学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。』をスローガンに、学校教育機会が保障され、すべての子どもにチャンスが与えられる社会を目指しています。

〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1-3-12 カミヤビル3階 【お問い合わせ】TEL 022-265-3461 <http://www.cfc.or.jp/>



Florence 認定NPO法人フローレンス 【認定特定非営利活動法人フローレンス】

「子育てと仕事そして自己実現のすべてに誰もが挑戦できるしなやかで躍動的な社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む最も象徴的な「病児保育問題」解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の仕組みを構築し、現在首都圏を中心に展開、順次拡大を予定しています。また、08年より収入の少ない働くひとり親世帯の子育てを支援すべく寄付会員制度を導入し、安価な病児保育サポートを開始しています。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 第二プレシージャビル502号室 【お問い合わせ】TEL 03-5275-1161(9:00~18:00) <http://www.florence.or.jp/>



TOYBOX Nonprofit Organization 【特定非営利活動法人トイボックス】

さまざまな分野の専門家が集まり、教育・エンターテインメントからまちづくりやソーシャルクリエイションまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府 池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。

〒563-0029 大阪府池田市五月丘5-3-18 【お問い合わせ】TEL 072-751-1145 <http://www.npotoybox.jp>



日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION 【公益財団法人 日本財団】

民間の立場から、社会に存在するさまざまな課題を解決するために、国内外で支援を実施しています。海や船に関わる活動、教育や文化・福祉に関わる活動への助成実績は、5万件以上にのぼります。東日本大震災では、ご遺族に対する弔慰金・見舞金の配布、NPO等への100万円の緊急支援など、迅速な支援を行いました。現在も国内外より寄せられるご寄付によって、被災地のニーズに即した復興支援を展開しています。

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル 【お問い合わせ】TEL 03-6229-5111 <http://www.nippon-foundation.or.jp/>



東北から未来の復興を支える社会のリーダーを

未来創造事業(認定特定非営利活動法人NPOカタリバ)

震災後、被災地では家や働く場所を失い、町の外へ移り住む人も多く、震災前から予想されていた少子高齢化が進んでいます。例えば、コラボ・スクールのある大槌町の人口構造は、2050年に予測されている日本の人口構造と似通っています。被災地の教育課題を解決することは、日本の未来を作ることにも繋がると考えています。

未来創造事業では、被災地の子ども・若者を中心に、スタディツアーやプロジェクト学習を実施しています。「OECD 東北スクール」(子どもたちが主体的に行動し、パリで東北・日本の魅力をアピールするプロジェクト)では、2012年7月と13年3月の2回、女川町・大槌町の中高生13名の参加をサポートしました。2012年4月に行われた「女川第一中学校 修学旅行」では、中3生72名がグループに分かれ、東京の企業を訪問するためのコーディネートを実施しました。また、2012年7月の「キズナハイスクール」、13年3月の「やくそく旅行」では、コラボ・スクールの生徒を中心に上京し、復興をテーマとしたワークショップや発表を行いました。

支援されるだけを卒業して、大槌をつくる人になりたい

自らが復興の担い手になりたいという想いから、大槌の高校1年生有志が、震災後の町の課題を解決するプロジェクトを始めました。主体的にプロジェクトを企画し実行することを通じて、「前に踏み出す力」等を身につけることを目指しています。未来創造事業では、高校生たちの挑戦をサポートしています。



個人からのご支援

継続的に子どもたちをサポートする輪を広めるために、ハタチ基金では、継続寄付(サポート会員)の皆様を「呼びかけ人」と呼んでいます。一人ひとりが、身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援へと繋がります。一緒に子どもたちを支えて頂ければ幸いです。ハタチ基金Webサイトでは、ハタチ基金に寄せられた「支援者の声」を更新しています。そちらもぜひご覧ください。

伊月 和夫
(株)日立製作所
金融システム事業部

せせらぎが寄り集まって大河になるように皆さんと一緒に、未来を担う子どもたちのために今私が出来る事を続けていきたいと思います。

継続的に毎月寄付を
くださるサポート会員
(呼びかけ人)

約900名
(2013年3月末時点)

澤口 真己子オリバー
日本語教師

悲しみが薄れていくのには時間がかかると思います。皆さんのことを私たちは忘れていません。学ぶことをあきらめないでください。

松浦 俊夫
DJ

こつこつと、しかし確実に子どもたちの未来への道しるべを示し続けているハタチ基金。そこへ“走ること”で寄付を集めるプロジェクト、Run For Children Tohoku。微力ですが、これからも継続していきます。

山崎 千晶
出産祝い
おしゃれ海外ベビーギフト
babyRotaco～ベビーロタコ～

今2歳の息子も震災当時まだ9カ月でした。同じ子供を持つ母として。毎月当店の売り上げの一部を寄付致します。

三谷 宏治
KIT虎ノ門大学院 教授

ヒトの痛みや喜びに共感できる心を。そして、自分とヒトを支えられ、励まされる力を。

ひうら さとる
漫画家

今回の震災でたくさんの親御さんをなくしてしまった子どもたちへ息の長い支援ができればいいと思っています。もっと多くの人たちに支援の輪が広がって一人でも多くの子どもたちが立派な大人になってくれればうれしいですね。

石原 恵美子
主婦

被災された方々のお役にたちたいと思いつつ一度も行くことかなわず。それならせめて毎月金銭的に役にたたいとアルバイトを始めました。わずかですが活用していただけたら嬉しいです。

酒井 穰
フリービット株式会社 取締役

震災からの復興への「コミットメント」の強度は、僕たち自身で決めることができます。たとえ被災地に直接行って支援をすることができなくとも、支援には様々な関わりかたがあります。

白河 桃子
作家/ジャーナリスト

ハタチ基金の活動報告会に行き、被災地のニーズが多様化し、また復興への道のりはまだまだ長いということを実感しました。その中で、未来へ向かう力、子どもたちにフォーカスした支援を、試行錯誤しながら、着実に支援を進めている皆さまには頭が下がる思いです。子どもたちの瞳に未来の希望を見て、多くの人に活動を知ってほしいと思いました。

関根 郁夫
埼玉県教育委員会教育長

あなたは、あなたの隣にいる人たちにとっての希望です。あなたは、先を行く人たちにとっての希望です。誰もが誰かの希望なのです。だから、手を携えて、前を向いて歩いてゆきましょう。

縄田 和生
朝日航洋株式会社

2011年の春を忘れない。今、私の子どもは、小学校3年と5年生。2人が強く、優しい大人になることを祈るとともに、どの子どもたちも同じように、強く優しい大人になることを祈ります。

石田 昌宏
公認会計士/税理士
石田会計事務所

将来に夢が描ける環境で、子供たちには大きく育ってもらいたいと願っています。

平岡 政弘

私自身学生の時に父親を亡くし、その時に返還義務のない奨学金をいただいで、大変に助かりました。すっかり忘れていましたが、ハタチ基金のことを知って思い出しました。この機会に恩返しをしたいと思います。

荻野 弘之
上智大学文学部 教授

緊急の被災地支援とは別に、長期的な展望に立って、自分たちの生活を反省し、技術と社会のあり方、人間同士の繋がり方をめぐって、新しい理念、新しい感受性を生み出してゆく若い人材の育成を願っています。

梅村 淳
大湊高校川内校舎教頭

多くの復興地の子ども達、絆を結ぼうとしている世界の若者達、彼らこそがこれからの世界のあり方を考え変革する原動力となるでしょう。「未来」は、皆の笑顔がこぼれる世界に。

〈呼びかけ人〉今村久美、関根郁夫、後藤健夫、荻野弘之、中岡淳、平川摂、武藤睦子、梅村淳、土井香苗、松本智春、三谷宏治、青岡マコ、山内悠太、小村俊平、中野真依、蓮沼聡、鈴木啓太、白井智子、村松和彦、馬場学、山崎清治、額賀深雪、皆川司、岡崎大輔、杉山達哉、清口智、菅峰和生、谷本勉、和田彰、吉次潤、池田瀬津子、北山陽一、岩井俊宗、中山裕美子、大見勉、鷺島利佳、市川千賀子、宮川和子、小山史未子、菅原美智子、森薫、綾原建志、村田早耶香、荒川寛子、畠高孝雄、町田智雄、清末真司、伊月和夫、村田一倫、松崎裕江、中村慶子、吉田紫磨子、安田七海、上原航平、新井咲子、渡辺謙一郎、酒井稔、竹下涉弥香、夏錦康正、川本純子、三好史恵、松江妙子、大木かおり、石田明、村上久乃、久野哲、細田直之、和田秀子、水野貴充、野中亮宏、田中たまき、三津田直子、東えり子、泉朋行、古屋克己、峰松加奈、國領二郎、茅野和枝、田島弓子、安倉知弘、馬越恵美子、西尾伸介、芝原靖、山本龍太郎、波多野淳、波谷治美、小倉美代子、新屋久幸、牧村雅美、新井清美、町田あき子、吉田真奈美、斎藤亜弓、吉村加代子、藤沢久美、近藤克彦、高坂春菜、清野千恵子、篠原由美、横尾和弘、神谷純子、田村準、長谷部葉子、野口陽子、堀越美紀、岡本拓也、クレイネス敦子、寺脇研、山崎倫代、中澤澄夫、河村昌治、田中綾乃、植村久也、井生亮一、今井正喜、横井里奈、山脇直司、出町慎一、塚原明子、高島由美、広川真吾、庄司眞、鈴木信章、西原真人、林樹志、笠原しょうこ、村井秀治、大石さゆり、佐々木裕、山本薫子、増田裕幸、斎藤和幸、諸島成士郎、川端洋子、掛端薫、松下光司、三輪潤子、桐原正寿、山本由美子、浜中和美、石田昌宏、北澤ちさと、田中知子、村松賢司、小林紀方、貫井政文、辻本敬子、鈴木厚子、石川美聡、松岡心悟、馬越太郎、吉村亜紀子、山内明子、能島裕介、下村信子、大嶋美弥、平井豊康、南田登喜子、宮内英子、鈴木慶男、石田みのり、柳谷哲也、松原真樹、石垣路路、富田英明、野々山和美、中西田鶴子、宅明健太、後藤庄一、山口裕臣、江島裕司、金子孝代、阿久津純一、野々垣ひとり、中山貴美子、久米村隼人、北村智、米倉弘樹、霜村毅真、石崎雅士、長谷川勇紀、長谷川美貴子、中川奈都子、又吉淳次、西村武士、古川佳子、今林正嗣、浦橋美加、若菜勉、野口潤、國金美砂緒、荻山嗣晃、服部繁男、井上千賀子、中野純、加藤和佳子、松田聖子、縄田和生、田嶋暢貞、小室泰子、田嶋陵・昌子、東佑丞、太田道之、青木薫、徳永忠士、堀口智、森川哲夫、山口稔、清原大、本間純子、森麻衣子、安田貴子、高久賢次、藤本ひとみ、松永忠大、中原ひさの、小竹政年、高橋容子、福地潤子、本田美紀、鈴江秀樹、細川邦子、鈴木大介、森本まこと、愛甲ちえ子、吉岡緑、伊藤玲子、鈴木令奈、菊池しのぶ、高橋達也、桐原意有、熊谷真希子、中村元一・章子、村上真希、岩田このみ、杉田道子、増田純平、坂本一、藤井朋樹、高根沢香、鮫島麻実、齋藤礼子、李明炯、窪雅子、川島ゆり子、河野香織、南部達夫、飯沼文絵、佐藤朋子、鈴木恵子、長谷川智美、平原由季子、武田康裕、山白千津子、山田愛美、松村清次、中井眞佐子、稲井比呂子、海野奈々美、生島織夢、田中公子、平岡聡、望月あや、高尾義明、紅谷昇平、土屋有、畑中松雄、田村美香、本田洋子、稲本由紀子、松高一恵、相原ゆみ、菱田峰高、高部裕通、今泉欣也、細萱智大、野澤紅美、小山聖子、ひうらさとる、木根珠実、横山知香、内藤賢司、藤田有紀、

松田静子、陳風雷、小名木勇久、川崎瑛樹、高橋あづさ、渡邊太郎、吉田真紀子、額賀佑佳、山崎正枝、島田成夫、鈴木智子、中山真理子、杉原一臣、一色隆平、菅井啓勝、黒田朋斎、堺勇人、井上孝之、八塚絵里、石原王美、大山和寿、氏家菜美子、草野麻代、宮田祐子、志垣有紀子、松本和美、大塚雅彦、たなかりか、外岡周、手柴孝太、桂隆博、服部祥子、原田裕造、太田智子、大野梨、大江俊夫、濱岡俊、川口崇、小室吉隆、坂井博明、貫井猛晶、高村幸宏、渡辺貴久、宮原契子、酒向笑子、井上規正、道須佳恵、大野里香、神谷佳子、金子基弘、林隆、久保田奈穂子、中谷吉伸、池田彩子、中野充朗、高木真理子、田辺彰、勝村和子、高島啓輔、脇田博子、浅井琢也、京野玄、伊藤裕子、木寺寿徳、守屋麻樹、高野昌典、出村一夫、松浦俊夫、今井園美、近藤永子、奥田智子、鈴木亜紀子、秋元祥治、吉田裕介、斎藤薫、井上光恵、工藤博司、松浦大輔、西村大気、中島隆文、茅野博、長山晴美、西博喜、鋤橋弘行、日下美穂、星谷直入、阪本圭、岩嶋梨恵、大野早苗、森山友歌、谷本悟、八巻知香子、小高倫子、大谷亜希子、竹内美香、川越修、戸田靖子、守屋雄介、福岡八寿子、磯部篤史、川村志げ子、佐藤洋行、山田みゆき、大木香織、織田亜由美、橋本ますみ、伊藤慎悟、大久保直之、宮城島知恵子、出口善也、力田春彦、村井宏行、中村光男、石田洋司、山崎ゆみ子、小林智彦、中島徹、村松邦子、清水俊子、高橋直人、志村啓、二瓶孝浩、高須生恵、武井良子、向山武俊、斎藤左知子、重面武、小林聖子、北田隆之、網脇舞、近藤安明、神原陽平、浅見有紀、内田幸栄、山内伸一、猪瀬美樹、初谷透、大脇陽、タナバツ淳子、高山真理子、石原典明、横山元、近藤真、小林尚子、原田雄輔、戸崎優、永田正樹、加藤節子、早房君枝、北川尚之、芳賀淳、村松由美子、奥田洋子、給前悟郎、名倉真紀子、薩山和子、熊澤みさき、浅野信彦、和田理恵、桐山賢一、伊東章、西丸哲信、大坪健雄、佐々木琢宏、石川茂樹、市川かおる、河合慶子、太田多美子、小見山卓哉、林久美、水野清、桐山裕文、小阪由美、小石浩子、菊池廣平、早坂剛雄、由岐和広・玲子、太田勇、宗像勝巳、小崎太朗、寺町東子、石井優子、石井恵子、篠原昭寿、近藤多恵子、前田仁、山下千賀子、土屋奈緒美、小尾勝吉、川上文恵、義部敏彦、平堀剛、石川紀子、金子浩之、今野いおり、植木久一、井上和俊、奥野友紀、山下兵衛、石川清久、石橋隆一、堺寛、田野梓、小池寛子、渡壁由季、鈴木奈美、村木美紀子、佐々木巧、石村昌也、木村英之、市原淳子、小倉雅子、羽田美佐江、武田洋子、市位ちひろ、中澤俊彦、徳永宏美、佐藤剛、徳永良信、山田佳男、長尾英次、柳井玲子、上条訓之、古澤法之、塚越淳雄、外崎明誠、阿波野聖一、北澤聖子、川島ひろみ、新井雅美、和田昌興、山本さやか、大山順司、石川文代、入内島正悟、藤本泰世、原加寿美、池上未斗吏、杉田冴子、山崎千晶、松村友紀子、堀井裕司、川嶋規郎、杉岡早希子、池田陽一、中川浩史、吉村章、植竹啓延、山崎拓哉、麻田智奈美、加藤愛子、小林洋哉、澤口真己子、中島幸治、佐藤寛、伊藤正則、白石禎子、今井慶、池羽博・純子、杉岡ひとみ、鶴岡恵太、大塚雅一、橋本麻由里、畑地登志子、馬場真理子、鈴木綾佳、崔崎徳、藤原芳輝、飯田寛子、稲葉薫、宮松扶友基、友野千英、山口恵、飯田博子、関谷摂史、菊宮浩二、川嶋真里、本間梨恵

※お名前掲載を許可頂いた方のみ掲載しております。

企業・団体からのご支援

ハタチ基金では、2012年度、企業・団体様からのご寄付を250件以上頂きました。継続的にご支援を頂く企業・団体様も多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪と一緒に広めるためのご協力も頂いております。



サッポロホールディングス株式会社

2011年に続き、ビールイベント「恵比寿麦酒祭」等を通じて、約1780万円をコラボ・スクールに指定してご寄付頂きました。



ダイドードリンコ株式会社

継続的な社会貢献活動を実現することを目的とした「地域コミュニティ貢献積立金」よりご寄付頂きました。



株式会社燦英

メディアでのコラボ・スクールの報道をきっかけに、活動にご共感頂きご寄付頂きました。



株式会社一ノ蔵

前年度に続き、「一ノ蔵 特別純米生原酒 3.11未来へつなぐバトン」の売上全額をご寄付頂きました。



アソシエテッド・インターナショナル株式会社

前年度に続き、2012年度も年に2回、継続的にご寄付頂きました。



株式会社ホクエイ

震災後、グループとして継続的に寄付をすることを決定され、従業員のご推薦によりご寄付頂きました。

- SAPジャパン株式会社
- 株式会社オガノ
- テクノベンチャー大東
- ユニー株式会社
- ファミリーマートユニオン
- 銀座西並木通り会

- アニメーター有志チャリティ本『BULLET』
- 株式会社ノーウェア
- 一般社団法人APバンク
- 株式会社ベネッセコーポレーション
- 株式会社サンポール

- 株式会社ブロンズ新社
- 公認会計士・税理士 石田会計事務所
- 株式会社ホッタ
- TSエンタープライズ / With you Japan

株式会社ジェイエスエス、Tsunami Appeal Exhibition by British Artists Ms Eiko Yoshimoto Dr Roger Williams、松谷商事株式会社、日本一心プロジェクト、レインボーママン・けいはんな記念公園管理事務所、J-POWERグループユニオン、KDDI株式会社、株式会社リアル、有限会社マカアロヒ、株式会社シッパス、株式会社オオイシ、ラッセル・インベストメント株式会社、株式会社ホットインターナショナル、SPFUSA、立夏幼稚園、株式会社オータ、株式会社トランスワード、ONE TENTH Project、合同会社ナチュラルファウンデーション、イタリア・レッコ市 太鼓プロジェクト協会、寒川パソコン教室 允杜瑠大楽、株式会社エフプランニング、北大医学部41期会、株式会社まるじょう、日本テープ株式会社、オトイ株式会社、エスエス・プロフィット、株式会社エイトラス、株式会社リサイクルマイスター、To Action Mom China、尾張旭ランニングクラブ、SWAPMEET会、つながる箱、有限会社それいゆ、カカイロプラクティック moiti moni、Lyceum Alpinum Zuoz Swiss、株式会社アイデア インスティテュート、公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団、医療法人大慈会三原病院、ealing japanese mums and friends、一布会、スピードウェイ、有限会社H.T.C.、Run for Children Tohoku in adidas RUNBASE 2013、オレンジ・ホームズ株式会社、株式会社アイトー、ワンゲイン株式会社、株式会社 マーズデザイン、田園調布雙葉中学高等学校、株式会社オハナスマイル、シーフォー株式会社、社会福祉法人 相生会、三生医薬株式会社、株式会社 エストサポート、ヴォラーレFC浜松、Fulcrum Osteopathic Center、DKマテリアル株式会社、株式会社鴻友建設…

※その他にもたくさんの企業・団体様からご支援を頂きました。

チャリティーでのご支援例

通常のご寄付の他、チャリティーイベントや寄付付き商品など、さまざまな支援方法をご提案いただいております。一部になりますがご紹介します。

きずなアートフェス（株式会社クオリアート）

イベントでのハタチ基金のご紹介と募金の他 Facebook「あーとちゃん"いいね!"募金プロジェクト!!」にてご寄付頂いています。また、2013 年度のカレンダーを通してご支援頂きました。



ハロウィン社内イベント（セールスフォース・ドットコム ファンデーション）

社員の方よりハタチ基金をご紹介頂き、マッチング寄付（社員の申請により同額の寄付を会社からも頂ける仕組み）のご支援を頂きました。Salesforce のライセンスも無料提供頂いております。



クリック募金“キボウのカケラ”（KDDI株式会社）

昨年より、「キボウのカケラ」支援プログラム「東日本大震災 被災地の子どもたちに明るい未来を」にて、皆様からの1クリックごとに



1円を寄付頂いております。ぜひご協力ください。
<http://www.kddi.com/corporate/torikumi/kibou/index.html>

恵比寿麦酒祭ほか（サッポロホールディングス株式会社）

東日本大震災支援ビールイベント「恵比寿麦酒祭」(12年9月・東京都)と「道産子感謝 Day」(12年6・7月・北海道)で販売された、生ビール約5万杯の売上金全額をご寄付頂きました。



一ノ蔵 特別純米生原酒 3.11未来へつなぐバトン（株式会社一ノ蔵）

被災した際に全国からご支援を頂いたご恩を「バトン」に見立て、日本の将来を背負う子どもたちへ、また次の方々へ繋いで欲しいという願いが込められた商品の売上をご寄付頂きました。



心の絆応援プロジェクトinふなばし（実行委員会）

被災した地域への長期に亘る復興活動、支援意識の継続と、被災した子ども達へ向けた具体的な支援を目的に、ハタチ基金を応援頂き、イベントを通して継続的にご寄付を頂いています。



〈チャリティーイベント〉

●第3回ガンバるママへご褒美フェスタ（Happy Mammy）●NEVER FORGET 0311 vol.2（DRAGON HEAD）●第1回 蹴友杯～東日本大震災復興支援チャリティーサッカーフェスティバル～（ヴォラーレFC浜松）●Fashion & Music Special Collaboration Event「未来への希望」（東北応援「渋谷の魂」プロジェクト）●Run311 at 皇居-second（当摩 武彦）●【Yoga】太陽礼拝×108回で東北の子ども支援！（内柳亜由美&桑原幸子）●チャリティー朗読イベント「i-l-a-n-d vol.2」(遠藤桃子) ●第6回まんまる市 in 沖縄（まんまる市実行委員）●社会人20周年記念パーティー（NTT SOFT 7期有志）●Ginza Namiki Night Cruise 2012（銀座西並木通り会）●震災復興支援イベント@アメリカ（立夏幼稚園）●第2回 維摩池チャリティマラソン（尾張旭ランニングクラブ）●花祭り（医療法人大慈会三原病院）●ジャパン祭りでのチャリティー@ロンドン（イーリングジャパニーズマムズアンドフレンズ）●mama fes 2012 Autumn in 東京ミッドタウン（ママフェス2012実行委員会）…

〈チャリティー商品〉

●チャリティーネックレス&ブローチhugukumi（HASUNA）●初夏の東北の花（SYUNKA）●復興支援コンピレーション・アルバム『Play for Japan 2013』（オトイ株式会社）●アビタ・ピアゴでのP&G対象商品（ユニー・P&G）●チャリティー絵本（株式会社アルバムえほん）●非常食の定期宅配サービス（yamory）●子供靴とアクセサリー buranko tree（大浦ようこ）…

〈その他〉

●成人式での募金活動（新潟三条市成人式実行委員会）●同窓会での継続寄付（北大医学部41期会）●校内・バザーでの募金活動（徳島県南小松島小学校）●JustGivingでのチャレンジ支援●サーバー提供（クララオンライン）

企業・団体のご担当者様からのメッセージ

個人の方の呼びかけをきっかけに、ご支援頂いた例も数多くございます。1人でも多くの方が、震災を他人ごとにしなくて、自分ができることを考え動くようなきっかけを、皆様も一緒につくって頂ければ幸いです。



ダイドードリンコ(株)
広報部
CSRグループ
石原 澄人

(「地域コミュニティ貢献積立金」の支援先として、ハタチ基金をご推薦いただいた他、個人としてもご寄付頂きました。)

私には2歳の息子がおります。震災があった年に生まれました。息子と同じ年の幼児が大変な状況にあることを思うと胸が痛みます。「震災時0歳だった赤ちゃんが、無事にハタチを迎えるその日まで」、このフレーズを忘れないよう私自身でできる限りの支援を実施したく存じます。



レインボーマン

3名の幼児を持つママたちの集まりです。同じ子どもを持つ親として出来る事は何か、皆で成せる未来を考え、行動しています。震災から月日はたてど、ずっと子ども達の事を忘れず自分の出来る事を支援に繋げていこうと思っています。安易な事は言えないけども、応援しています。いつまでも。

(チャリティーマーケットの売上をご寄付頂いたり、募金箱を手作り頂き寄付を呼びかけて頂きました。)



ONE TENTH (ワンテンス) project

震災から2年。まだまだ色々な事で、自分達出来る事が沢山あります。「少しずつでも良い、永続的にやっこいこう!!」「美容師1人ひとりの力は小さいかもしれませんが1人ひとりの行動を大きな力に繋げ、静岡から日本へ、そして、世界に繋げていこう!!」私たちは、そんな気持ちでいます。

(静岡県内の美容師の皆様を中心とした、「チャイルドチャリティカット」の売上をご寄付頂きました。)



株式会社ホッタ
取締役社長
堀田 峰明

(ドイツ時計ブランドSinn社より毎月のご寄付、また会社、社員の皆様からもご寄付頂いた他、個人として、呼びかけ人やチャリティコンサート、銀座西並木通り会のイベントなど様々なご支援を頂いております。)

「支援したカタチが見える」ということに、何かをしたくてもなかなか出来ることを見つけられない私にはありがたく頼もしい活動だと思っております。2031年までの道のりは長いですが、応援しております。

「これからの復興と教育支援」を考えるシンポジウムのご報告

2013年6月8日(土)、2012年度ハタチ基金の活動報告を兼ねて、シンポジウムを開催しました。当日は、パネリストだけでなく100名以上の参加者の皆様と一緒に、「いま私たちに出来ること」を考え、意見交換を行うことができました。

〈パネリスト〉※敬称略

逢沢一郎(自民党衆議院議員) 鈴木寛(民主党参議院議員)
荻上チキ(評論家) 白井智子(NPO法人トイボックス)
能島裕介(一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン)

〈ファシリテーター〉

駒崎弘樹(認定NPO法人フローレンス)

※2013年6月時点での肩書きとなります。



たくさんのご支援お待ちしております



○個人で継続的に寄付をする

毎月、継続的に寄付をするサポート会員(呼びかけ人)として月々1,000円からクレジットカードでご寄付。

○個人で今回寄付をする

ご都合のよろしい時にご希望の金額を、クレジットカードまたは銀行振込にてご寄付。

○団体の支援をする

支援企業・団体を随時募集しています。今まで商品の売上やチャリティーイベントでの収益など、継続的なご支援方法を多数ご提案いただいております。

※銀行振込のお申込みでは、支援活動を指定してのご寄付も受け付けております。ご指定先を事務局までご連絡ください。

○支援の方法

●クレジットカードからのご寄付はWebサイトからお申し込みください。(「ハタチ基金」で検索)

<http://www.hatachikikin.com/shien.html>

●銀行振込みでのご寄付は下記口座にお振込みください。

お振込み口座 ※ハタチ基金専用口座です。

銀行名 : 三菱東京UFJ銀行 本店

口座番号: 普通 7637273

口座名義: 公益財団法人 日本財団

※公益財団法人の税制優遇が受けられます。

※領収書が必要な方は、Webサイトの銀行振込みお申込みフォームまたは事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ: ハタチ基金事務局
(認定特定非営利活動法人NPOカタリバ内)
TEL: 03-5327-5667 ※平日10:00~19:00
MAIL: info@hatachikikin.com
<http://www.hatachikikin.com/>

ご寄付によって子どもたちに届けられた支援

2012年度、皆様からいただいたご寄付は、下記5つの事業を通して、福島県、宮城県、岩手県など東日本大震災で被災した子どもたちのために、大切に使用させていただきました。

◎ 認定特定非営利活動法人フローレンス ◎ 認定特定非営利活動法人NPOカタリバ



ふくしまインドアパーク郡山園
(福島県郡山市)



ふくしまインドアパーク南相馬園
(福島県南相馬市)

【支援例】

安心しておもいっきり遊べる施設の運営、子どもたちが毎日通っても飽きることのない遊具や玩具の購入やイベントの開催、子どもたちや保護者を支える施設スタッフや事務局スタッフの雇用など

◎ 特定非営利活動法人 トイボックス



みなみそうまーニングセンター
(福島県南相馬市)

【支援例】

発達障がいなど課題を持つ子どもたちが安心して通える施設の運営、そのために必要な備品の購入、子どもたちや保護者と寄り添う指導員の配置など



コラボ・スクール 女川向学館
(宮城県女川町)



コラボ・スクール 大槌臨学舎
(岩手県大槌町)

【支援例】

放課後の学びや居場所となる場の運営、安心・安全に生徒が通えるための送迎バスの運行、教材や文房具、冬季に使用する石油ストーブの灯油の購入、スタッフの雇用など



未来創造事業

【支援例】 グループワークや発表をするための備品の購入や会場の確保、東北からの移動交通費や食事・宿泊代、運営スタッフの雇用など

◎ 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン



学校外教育バウチャー
提供事業(事務所:宮城県仙台市)

【支援例】

学校外教育に使用できるクーポン(寄付の80%以上)の配布、子どもたちと面談をする大学生ボランティアの研修など

※1人当たりのクーポン費(25万円)は、文部科学省が調査した小学生から高校生までの年間の学外教育費の平均額にあたり、子どもたちが1年間継続的に教育サービスを受けることができる金額です。

会計報告 (2012年4月1日～2013年3月31日)

〈ハタチ基金の収支〉

(単位:千円)		
科 目	内 訳	金 額
寄付収入		142,239
配分金額	認定特定非営利活動法人フローレンス	21,917
	特定非営利活動法人トイボックス	24,768
	一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン	23,072
	認定特定非営利活動法人NPOカタリバ	29,361
合計		99,119
残高	収入-支出(配分金額)	43,120

※収入は、2011年度の繰越金額(58,074千円)を含みます。残高は、来年度への繰越となります。

〈各団体の支出〉

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。

認定特定非営利活動法人フローレンス

(単位:千円)		
ハタチ基金からの支出内訳	金 額	
人件費(現地パークリーダー、運営スタッフなど)	5,524	
運営費(工事費用、施設賃賃料、遊具の購入・水光熱費など)	16,393	
合計	21,917	

特定非営利活動法人トイボックス

(単位:千円)		
ハタチ基金からの支出内訳	金 額	
人件費(相談員など)	14,014	
施設運営費(ラーニングセンター・現地事務所)	5,172	
旅費交通費	3,692	
事業運営費(消耗品・広報費・雑費等)	1,349	
合計	24,228	

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

(単位:千円)		
ハタチ基金からの支出内訳	金 額	
バウチャー費	18,458	
人件費(法定福利費など含む)	2,574	
旅費交通費	424	
事務用品費(事務用消耗品など)	303	
広告宣伝費(WEBサイト、バウチャー作成など)	392	
通信費(郵送、電話・ネット回線など)	431	
事務所費(水光熱費含む)	414	
雑費(保険料、手数料、雑費など)	72	
合計	23,072	

認定特定非営利活動法人NPOカタリバ

(単位:千円)		
ハタチ基金からの支出内訳	金 額	
人件費(スタッフの雇用など)	1,657	
移動・活動費(生徒送迎バス、ボランティア交通費、宿泊費など)	3,977	
備品・消耗品費(学習設備、事務用品、生徒IDカードなど)	1,139	
教材費(授業で使用する教材など)	473	
その他運営費(保険、寄付募集広報、光熱費など)	6,145	
合計	13,393	

●コラボ・スクール大槌臨学舎 【総事業費】52,374千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(スタッフの雇用など)	704
移動・活動費(生徒送迎バス、ボランティア交通費、宿泊費など)	2,800
備品・消耗品費(学習設備、事務用品、生徒IDカードなど)	1,109
教材費(授業で使用する教材など)	284
その他運営費(保険、寄付募集広報、光熱費など)	4,465
合計	9,363

●未来創造事業 【総事業費】5,868千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(プログラム企画・運営スタッフ、企業コーディネイトスタッフなど)	106
交通費(生徒移動交通費、宿泊費など)	634
会場費(会場・食事など)	35
その他運営費(ワークショップ備品、事務用品など)	592
合計	1,370

●ハタチ基金事務局 【総事業費】8,749千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(寄付者対応、事務局運営など)	7,120
旅費交通費(スタッフ交通費など)	98
広報費(報告書、基金WEB作成、管理など)	806
その他運営費(光熱費、事務用品費など)	416
合計	8,441
カタリバ合計	32,568

※千円未満の端数は切捨て掲載しているため、内訳を足した金額と、合計金額が異なることがあります。
※ハタチ基金の支出金額と各団体の支出金額は、一部差額があります。
NPOカタリバは、2011年4月～2012年6月を2011年度の事業期間として運営したため、2011年度(2012年4月～6月)の収入(3,207千円)の支出を含みます。トイボックスは、事業計画から支出が下回ったため、差額(540千円)は来年度への繰越となります。

